

- 1 単元名・教材名 文章の要旨をとらえ、自分の考えを発表しよう  
「見立てる」「言葉の意味が分かること」

2 児童の実態と本単元の意図

(1) 児童の実態

(略)

(2) 本単元の意図

本単元は、学習指導要領〈思考力、判断力、表現力等〉の「C 読むこと」(1)「ア 事実と感想、意見などの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること」と「オ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること」、「カ 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること」、〈知識及び技能〉の(2)「ア 原因と結果など情報と情報との関係について理解すること」と(1)「オ 思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすること」を受けて設定している。

身に付けさせる資質・能力

- ・事実と感想、意見などの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を考えて要旨を読み取る力
- ・思考に関わる語句の量を増やし、要旨をまとめたり、感想や考えを書いたりする力

指導にあたっては、三つの段階で指導を展開していく。

第1次では、まず、学習計画を立てて、見通しを持たせ、学習のゴールとして要旨を把握してそれに対する自分の考えを書くことを知らせる。そして、第1次では、練習教材の「見立てる」で文章構成から要旨を捉え

る方法を学習する。ここで初めと終わりに筆者の主張が書かれている双括型であることや、筆者の主張に繋がる言葉が繰り返し使われていることなどを確認させるとともに、事例が筆者の主張を支えていることにも触れておくようにする。要旨を書く際には、型を用意し、苦手な児童も要旨を書けるようにする。

第2次では、「言葉の意味が分かること」の内容を把握して、第3次で要旨を捉えられるようにする。そのために、まずは、本文を読んで初発の感想を書かせる。納得できたことや、分からなかったり難しかったりしたことを交流し合って課題を設定して計画を立てる。次に、文章構成を理解して筆者の主張を確認したり、事例の挙げ方や論の展開の効果について考えさせるようにする。そのために、全文ワークシートを用意して、そこに段落番号や文章構成、サイドライン、メモなどを書き込んでいく。また、文章だけでの理解が難しいものは動作化したり、図に表したりながら理解できるようにさせる。

第3次では、要旨を捉えることと、学習のまとめとして要旨に対する自分の考えを書く活動をする。要旨を捉える際には、これまでの学習を振り返りながらキーワードを確認し、第1次で書いたものを参考に100字程度で要旨を書かせる。そして、学習の最後に要旨に対する自分の考えを書かせ、児童同士で交流させる。相手を意識した発表は、自分たちの普段の生活でどのように生かせるのかも考えさせて、実践意欲を高めていきたい。

### 3 研究主題との関わり

研究主題『確かな学力と豊かな心を育てる国語教室』  
～生きて働く力を育てる指導法の工夫～

本研究で目指す「確かな学力と豊かな心が育っている児童」とは、「生きて働く力を身に付けている子」である。「生きて働く力」とは、「学習の基本となる確かな国語力を身に付け（語彙力）、自分の思いや考えを、伝え合いや学び合いを通して広げ深める力（表現力）」と考える。そのためには、児童の実態を正しく把握し、年間を通して確実に指導事項が身に付くように、単元を通して付けたい資質・能力を見極め、言語活動を通して指導していく。

そこで、本単元では、次のような手だてを考えた。

#### 仮説①

内容理解に必要な語彙を獲得して、文章構成を捉えることができれば、課題解決に向けて必要な力を着実に身に付け、確かな学力を育むことができるだろう。

#### 〈 手だて 〉 ○ワークシートの作成と必要な語彙の獲得

本教材は本学級の児童の実態から考えると、これまでの説明的な文章の教材の中では、内容理解が非常に難しいだろう。これまでの教材は生き物や身近な事象で目に見える物など、具体的に想像しやすく自分の経験にもつなげやすいものが多かった。しかし、本教材は、言語の意味の範囲という、これまでと比べると抽象的で視覚的にも、経験からも想像し理解しづらい。児童が文章全体を捉えて要旨を把握するために、文章構成を確実に押さえさせたい。そのために全文ワークシートを用意し、そこに段落番号や文章構成、サイドライン、メモなどを書き込めるようにする。具体的には、「中」の二つの事例にある原因と結果を表す文章の文頭に㊦や㊧と書き込んだり、筆者の考えには赤線でサイドラインを引かせたりするなど文章の構造を視覚的に捉え、思考を整理させるようにする。前段階である練習教材「見立てる」でも全文ワークシートを使うようにし、「言葉の意味が分かること」でも要旨を捉えるまでの流れを確認させる。また、内容理解に必要な語彙の獲得に関しては、筆者が「広がり」と「範囲」、「言葉」と「言語」を使い分けていることに気付かせたり、例えとして挙げられる「点」「面」の表現については図に表して視覚的にも理解させたり、文面だけでは理解が難しい内容では動作化もさせたりと丁寧に扱っていくようにする。

## 仮説②

単元を通して付けたい資質・能力を高め、その力を生かすための言語活動（学習のゴール）を設定する。自信をもって考えを發表することで、自分の考えをより広げ深めるとともに、他者の考えを肯定的に受け止めて認めることのできる豊かな心を育むことができるだろう。

〈手だて〉 ○要旨に対する自分の考えを書き、児童同士で交流する。

本学級の児童は文章表現を苦手とする児童が多い。そうした児童が自分の力で、課題解決をするためには、明確な学習のゴールの設定と、その課題を解決するためにどんな資質・能力が必要で、何が自分たちにとって壁となっているのかを児童自身が理解することが必要だと考える。学習のゴールは「要旨に対する自分の考えの發表」であり、児童の実態を踏まえながら毎時間のめあてが着実にこのゴールに向かうような学習計画を立てることが重要だと考える。そこで、初発の感想で児童が何に納得していて、何に理解に苦しんでいるのかを明らかにする。その際に jambord を使って意見を整理するようにする。児童の初発の感想を生かして、学習のゴールに向けた計画を立てることで、見通しをもちながら主体的に学習に取り組むことができると考える。そして児童がつけた力を自信をもって表現し合うことで、学び合い、高め合い、認め合う心を育むことができると考える。

### 4 単元の目標

- (1) 原因と結果など情報と情報との関係について理解することができる。 〈知識及び技能〉(2)ア
- (2) 事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる。 〈思考力、判断力、表現力等〉C(1)ア
- (3) 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。 〈思考力、判断力、表現力等〉C(1)オ
- (4) 思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。 〈知識及び技能〉(1)オ
- (5) 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。 〈思考力、判断力、表現力等〉C(1)カ
- (6) 学習の見通しをもって、読んで考えたことを話し合い、一人一人の感じ方などに違いがあることに積極的に気付こうとする。 〈学びに向かう力、人間性等〉

### 5 本単元で取り上げる言語活動

- ・要旨に対する自分の考えを書いて、読み合う。

(関連：C読むこと(2)言語活動例ア)

### 6 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①原因と結果など情報と情報との関係について理解することができる。 ((2)ア)	①事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる。(C(1)ア)	①学習の見通しをもって、読んで考えたことを話し合い、一人一人の感じ方などに違いがあることに積極的に気付こうとしている。
②思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。 ((1)オ)	②文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。(C(1)オ)	
	③文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる(C(1)カ)	

7 単元の指導と評価の計画（全8時間）

次	時	主な学習活動	学習内容	指導上の留意点・評価
1	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○単元名とリード文を読み、学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。</li> <li>○学習のゴールの確認をする。</li> <li>○練習教材「見立てる」で学習の進め方を知る。</li> <li>○教師の範読を聞いて、内容と語句の確認し、初発の感想を書かせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習課題の確認</li> <li>○単元全体の見通し</li> <li>○要旨の意味</li> <li>○学習のゴール</li> <li>○学習の進め方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○要旨をとらえることを確認する。</li> <li>○要旨の意味の確認をする。</li> <li>○学習のゴールとして、「要旨に対する自分の考えを書いて発表し合うこと」を伝える。</li> <li>○初発の感想を書かせるときは、読んでいて分かりづらかったこと、疑問に思ったことを書かせ、次時に全員で確認し、要旨を捉えられるようにする。</li> <li>○初発の感想はジャムボードでも書かせ、全体で疑問を出し合い整理することで、学級全体で解決することを決める。</li> </ul>
	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○要旨の捉え方を知る。</li> <li>○要旨に対する自分の考えを書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○文章構成</li> <li>○大切な語句</li> <li>○内容の確認</li> <li>○要旨の把握</li> <li>○自分の考え</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○要旨を捉えるために、文章構成や大切な語句を知り、筆者の主張を見つけられるようにする。</li> <li>○要旨のまとめ方の例を提示して、それを参考にして要旨を書かせる。</li> <li>○自分の考えを書くときは、要旨に対して納得や共感できたのかを明確にして理由を含めて書かせるようにする。</li> </ul>
2	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「言葉の意味が分かること」での学習の進め方を確認する。</li> <li>○教師の範読を聞いて、内容と語句の確認し、初発の感想を書かせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習の進め方の再確認</li> <li>○初発の感想</li> <li>○学習計画</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○最終的に「要旨に対する自分の考えを書いて発表し合うこと」ができるように、文章構成や大切な語句から要旨を捉えられるようにすることを再確認する。</li> <li>○初発の感想はジャムボードでも書かせ、全体で疑問を出し合い整理することで、学級全体で解決することを決める。</li> <li>○子どもの初発の感想から出た疑問を基に、学習計画を立てて、児童の疑問を解決して内容を把握させるとともに、主体的に学習に臨めるようにする。</li> </ul>
			<p><b>【思考・判断・表現②】</b>  <u>発言、記述、観察</u>                      文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができている。</p>	

2	4	<p>○初発の感想を基に、疑問を確認し学習計画を立てる。</p> <p>○段落ごとに小見出しを付けて、短くまとめる。</p>	<p>○疑問の解決</p> <p>○要点・要約</p> <p>○内容の把握</p>	<p>○児童の疑問について、語句の確認をしながら叙述に沿って解決し、段落ごとに小見出しを付けて短く内容を書きまとめる。</p> <p>○要点を見つけて、段落ごとに要約する。</p>	<p><b>【知識・理解②】</b>  <u>発言、記述、観察</u>          思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすることができている。</p>
	⑤	<p>○「初め」「中」「終わり」の文章構成を確認する。</p> <p>○「中」を内容のまとまりで分ける。</p>	<p>○3つの構成</p> <p>○「中」を2つの構成に分ける。</p>	<p>○筆者の考えが述べられている部分を手掛かりに文章を3つに分ける。</p> <p>○「中」を分けるときは、「言葉の広がり」と「言葉のはんい」に着目させる。</p>	<p><b>【思考・判断・表現①】</b>  <u>発言、記述、観察</u>          事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができている。</p>
	6	<p>○原因と結果の関係を捉える。</p> <p>○それぞれのまとまりの役割とまとまり同士の関係を捉える。</p>	<p>○原因と結果</p> <p>○まとまりの役割</p> <p>○まとまり相互の関係</p> <p>○段落構成図</p>	<p>○「中」の事例に着目し、原因と結果について考える。また、この文章構成の効果について考える。</p> <p>○それぞれのまとまりの役割と効果について考える。</p>	<p><b>【知識・技能】①</b>  <u>発言、記述</u>          原因と結果など情報と情報との関係について理解することができている。</p>
	7	<p>○筆者の主張を読み取る。</p> <p>○要旨を書く。</p> <p>○要旨に対する自分の考えを書く。</p>	<p>○筆者の主張</p> <p>○要旨</p> <p>○自分の考え</p>	<p>○見つけた大切な語句を使い、「初め」「終わり」に書かれている筆者の考えを中心に要旨を書かせる。</p> <p>○例を参考にさせながら、要旨に対する自分の考えを書かせる。</p>	<p><b>【思考・判断・表現①】</b>  <u>発言、記述、観察</u>          事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができている。</p> <p><b>【知識・技能】②</b>  <u>発言、記述</u>          思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすることができている。</p>

8	○考えの交流をする。	○交流の仕方 ○考えの共有・比較	○前時で書いた自分の考えを発表するとともに、観点に沿って相手の発表も聞く。 ○発表したことをもとに同じ考えや異なる考えを整理する。
	○交流して気づいたことと、学習の振り返りを書く。	○ふりかえり	○学習全体を振り返って、わかったことやできるようになったこと、生活に生かしたいことなどを書かせる。
	<b>【思考・判断・表現③】</b> <u>発言、記述、観察</u> 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができている。		
<b>【主体的に学習に取り組む態度】</b> <u>態度、ワークシート</u> 学習の見通しをもって、読んで考えたことを話し合い、一人一人の感じ方などに違いがあることに積極的に気付こうとしている。			

本時の展開 (5/8時間)

(1) 目標

事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えることができる。

〈思考・判断・表現〉(1)ア

(2) 評価規準

文章を内容のまとめりごとに整理している。【思考・判断・表現】

(3) 展開

学習活動	学習内容	指導上の留意点・評価	時間
1 辞書引きをする。	○「広がり」「範囲」	○「広がり」「範囲」の意味を適切に理解させて、「広がり」と「範囲」、「言葉」と「言語」などを筆者が使い分けていることに気付かせる。	2
2 前時の想起と本時のめあてを確認する。	○本時の見通し	○本時の見通しを持たせながら、主体的に課題を解決しようとする意欲を持たせる。	3
要旨を捉えるために文章をまとめりに分けよう。			
3 内容の確認をしながら音読をする。	○音読 ○内容をおおまかに捉える。	○音読の前に、全文をおおまかに捉えることがまとめりごとに分けるときに大切だということを伝え、音読の意図を確認する。	5
4 文書を3つの組み立てに分ける。	「初め」「中」「終わり」(双括型)	○前時の学習を生かしながら、文章を3つに分ける。 ○筆者の主張はどこか考えさせることで、「初め」と「終わり」を捉えさせる。 ○10段落が「中」に含まれることは、文頭の「さらに」で前の内容と繋がりがあることや、「言葉をどのはんいまで～」こと、「言語について」の事例であることを手掛かりに考えさせる。	10
〈予想される児童の反応の例〉 ・筆者の考えが書いてあるので、1段落が「初め」で、12段落が「終わり」だと思う。 ・10段落は初めに「さらに」と書いてあるので「中」に入ると思う。 ・11段落は事例が書いてあるので、中だと思う。 ・11段落と12段落は「言葉の意味は面である」ことをいっているので「終わり」だと思う。			

<p>5 中を2つに分ける。</p>	<p>○文章構成 ○事例、意見</p>	<p>○11段落については、11段落が12段落の筆者の考えである「言葉の意味は面である」ことが書いてあるので、「終わり」であると確認させる。</p> <p>○中心となる語句や内容のつながり、つなぎ言葉、事例などに気を付けて「中」を2つの構成に分ける。</p>	<p>15</p>
<p>〈予想される児童の反応の例〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中①はコップの例のところだろう。</li> <li>・事例から考えると3つに分けられるんじゃないかな。</li> <li>・この事例で何を伝えようとしているのかな。</li> <li>・「言葉の意味の広がり」と「言葉の意味のはんい」で内容を分けると2つになりそう。</li> </ul>		<p>〈評価場面〉【思・判・表】〈評価方法〉<u>発言、記述</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・叙述を基に文章構成を確かめ、「中」を2つに分けることのできた児童をB評価とする。</li> </ul> <p>〈努力を要する状況(C)への手だて〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「言葉の意味の広がり」と「言葉の意味のはんい」に着目させて内容を分けさせる。</li> </ul>	
<p>8 本時の学習のまとめと振り返りを書き、次時の見通しをもつ。</p>	<p>○まとめ ○振り返りの視点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習で学んだこと</li> <li>・新しく分かったこと等</li> </ul> <p>○次時の学習の見通し</p>	<p>○叙述をもとに文章構成を考えることができたかを書かせる。</p> <p>○次時はこれまでの学習を生かして段落構成図を書くことを確認し、見通しを持たせる。</p>	<p>5 5</p>

(4) 板書

㊦

㊧

文章をまとまりに分けるには、言葉に注目して内容ごとに整理することができる。

終り		中		初め
三	二	十 九 八 七 六 五 四 三 二	一	
(小見出し)	(小見出し)	(小見出し) (小見出し) (小見出し) (小見出し) (小見出し) (小見出し) (小見出し) (小見出し) (小見出し)	(小見出し)	(小見出し)
筆者の主張		中②「言葉の意味のはんい」	中①「言葉の意味の広がり」	筆者の主張

㊨

要旨を捉えるために文章をまとまりに分けよう。

文章の要旨をとらえ、自分の考えを発表しよう

**言葉の意味が分かること**

今井むつみ